

自立型人間育成研修

本年度より本校の校内組織を少し変えました。「総合学科研究部」を新設し、図書部を「図書情報研修部」として学校で行う業務を整理統合しました。図書情報研修部は、生徒の読書活動の推進、図書館運営に加え、教員研修・授業改善・情報センターの運営等を新組織体制で担うこととしてスタートしていますが、この取り組みは後日お伝えすることとし、今回は総合学科研究の取り組みと1年生で行う「産業社会と人間」（通称：サンシャ）の実践について紹介したいと思います。

新設した「総合学科研究部」は、これまで総務部・教務部・進路指導部など各部で担当していた産業社会と人間、総合的な探究の時間（インターンシップ・進路設計・銀の哲学・課題研究）を一元化し、これらの教育活動を一本の柱のようにつなげ、他の分掌と連携・調整しながら系統的な教育活動をどう展開していくかを研究しながら実践していくこととしています。昨年まで前期集中で行っていた「産業社会と人間」を通年履修とすることによる学びの改革、これまで3年生で実施していた邇摩高フェア2020を全校生徒で実施し、模擬会社理念と構想を共有をしながら新たな邇摩高フェアの創造、キャリアファイルの仕様変更によるキャリア教育の充実向上、教室への国語辞書の設置による生徒の表現活動の充実や主体性の向上など新たな取り組みも次々と企画・提案されてきています。

総合学科で学ぶ全ての生徒が履修する「サンシャ」は、産業社会における自己の在り方生き方について考え、生涯にわたって学び続ける意欲や態度を養うことを目標とした教科です。その実現のために職業体験などの体験的な学習や、社会人や地域の有識者を講師とするなど地域との積極的な連携を図ること、さらに見学や調査研究などを通して自己の在り方や生き方や進路について考えることが大切となる教科です。これらの学びを通して適切な教科・科目を選び、系列の決定など選択能力の育成にもこの科目は大きな役割を果たしています。

昨日からこの「サンシャ」で、『自立型人間育成研修』が始まりました。この研修も臨時休業の影響で本日まで延期されていましたが、ようやく実践に至りました。中学生から高校生になった自分を客観的に見つめ直すことと、高校生活での目標を設定することを目標に、1年生各クラス3回（1回2時間）の研修を行うように計画されています。講師は、“Office Sou”の森山和子先生で、『「原田メソッド」を用いた高校生活への目標設定（邇摩高バージョン）』というテーマで行われました。本日は、思い込み・従来の思考からの脱却、原田メソッド、自立型人間を目指すための考え方・心構えを中心に話をさせていただきました。

今の多くの生徒が「高校生活を楽しまたい」という漠然とした目標設定しかできていない状況から、この研修を通して、高校生活をどう過ごすか、自己の在り方生き方を考え、この漠然とした目標が具体的な目標になり、将来を考えた行動変容・主体変容に変えていけるか、今後が楽しみです。

講師をしていただいた森山先生から、帰り際に「あいさつがとてもいい。素晴らしい。」と褒めていただきました。自立型人間になるための考え方・心構えの一つに「成長の三原則」の実践があり、その中の「礼を正す」ことについても話があったようですが、1年生の段階で礼を正すことがきちんと全員ができていることに対してのプラスの評価を嬉しく思いました。

令和2年度が始まって、校長だよりの話題といえば、コロナ関連のニュースばかりでしたが、学校が再開し、今後本校の教育活動について紹介していきたいと思えます。

